

SDGsと私たちの関わり

4 グループ

4グループの発表の流れは、次の通りとなる。まず、各メンバーの専門分野を考慮し、SDGsの17個ある目標の中から一人一つずつ選び、内容を調べた。その概要と、達成度はどのようになっているのか発表する。次に、それらを踏まえて、私たちに何ができるのかについて議論したため、その概要と結論について発表する。そして最後に、授業においてSDGsについて取り扱った場合の授業予告について簡単に説明を行う。

個々の専門性を考慮した内容については、経営情報学部のWさんは経済面から貧困について、栄養生命科学科の逸見は栄養の観点から世界の飢餓について、食品栄養科学部のOさんは製造の面から食品製造等による環境面の配慮についてを取り扱った。

SDGsは「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標である。日本においてもSDGsは、精力的に取り組まれており、政府には「SDGs推進本部」が設置されている。そして、企業や自治体、教育・研究機関等様々なところで取り組みが行われている。こういったことから、今の中学生が将来社会に出る前に知っておくことが好ましい話題であると考え、この話題をグループとして選択するに至った。

流れ

- ①SDG s とはーSDG s について各自の専門分野から
- ②達成度
- ③私たちに何ができるかを議論
- ④結論
- ⑤授業予告

①メンバー個々の課題意識と専門性を喚起・交鎖する問題群

経営情報学部 W

- ▶ 経済面から→貧困について

栄養生命科学科 Y

- ▶ 栄養面・健康面から→飢餓や栄養状態について

食品生命科学科 O

- ▶ 製造面から→食品製造等による環境への影響等について

②現代的課題重視

- ▶ SDGsは「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標である。
- ▶ 日本においてもSDGsは、精力的に取り組まれており、政府には「SDGs推進本部」が設置されている。そして、企業や自治体、教育・研究機関等様々なところで取り組みが行われている。

→これから生きていく中学生にとって重要でタイムリーな課題である。

持続可能な開発目標達成に向けて日本が果たすべき役割 外務省

JAPAN SDGs Action Platform 外務省

目標 1 貧困をなくそう

現状

- ▶ 貧困の定義
 - ▶ 1日1.25ドル未満で生活すること(絶対的貧困)
- ▶ 2013年は7億6600万人が貧困となっている。
 - ▶ [SDGs目標1「貧困をなくそう」の取り組み内容とは？ \(gooddo.jp\)](#) 閲覧日：2021/10/08
 - ▶ [1.貧困をなくそう | SDGsクラブ | 日本ユニセフ協会 \(ユニセフ日本委員会\) \(unicef.or.jp\)](#) 閲覧日：2021/10/08

貧困の定義は、一日当たり1.25ドル未満で生活すること(絶対的貧困)を指し、このような状態の貧困のことを絶対的貧困という。
この絶対的貧困に当たる人たちは世界に7億6600万人存在する。

現在の達成度

図1より現在、達成度としては、世界に18億人を超える絶対的貧困者が存在していたところから、

7億6600万人にまで減少した。(1990年と2013年の比較)

特に、東アジア・太平洋諸国の絶対的貧困者の減少が大きく寄与している。

世界の貧困の状況は、良くなっている...？

きわめて貧しい暮らしを強いられる人の数と割合の変化(1990年と2013年地域別)



図1 極めて貧しい暮らしを強いられている人の数と割合の変化

出典：世界銀行ホームページSDGsAtlas 2017

参考資料：[1. 貧困をなくそう | SDGsクラブ | 日本ユニセフ協会 \(ユニセフ日本委員会\)](https://www.unicef.or.jp/)
([unicef.or.jp](https://www.unicef.or.jp/)) 閲覧日：2021/10/08

取り組み

▶ フェアトレード

- ▶ 公正な価格で、継続的に取引をすることにより、生産者や労働者を支援することができる仕組みのこと

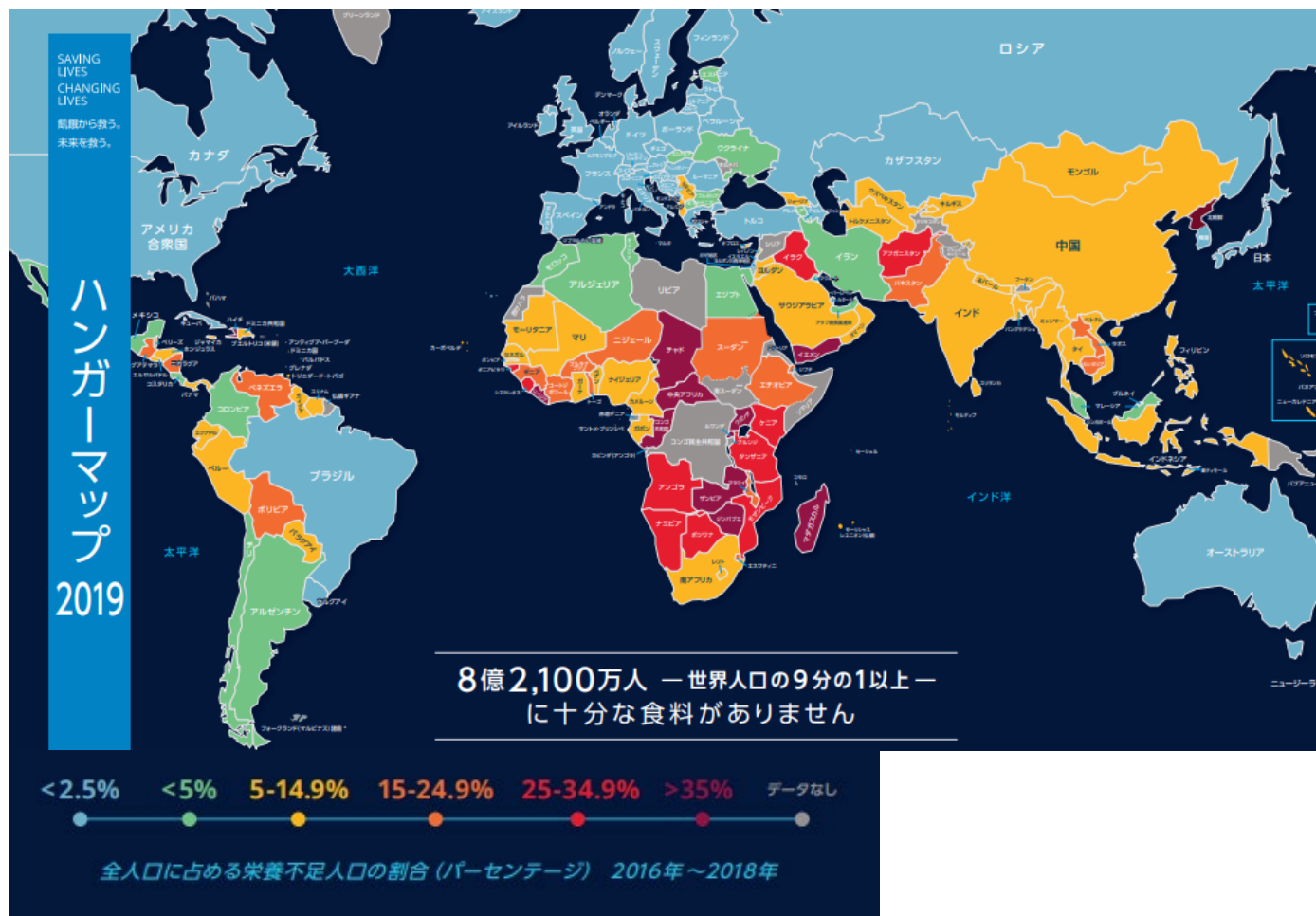
- ▶ フェアトレードとは？商品例と問題点について理解しよう！ | U25世代もSDGsを1から学べるメディア【なるほどSDGs】 (naruhodosdgs.jp)

- ▶ フェアトレード対象の品目としては、カカオ豆、コーヒー豆、衣類があげられる。

世界の取り組みとして、公正価格で発展途上国で生産されたものを取引する、フェアトレードが行われている。これは、発展途上国の生産者・労働者を支援することができる仕組みのことであり、物価が高くなるという問題点などが存在するが、理解が得られれば発展途上各国の絶対的貧困の問題解決に大きく貢献するものとなるであろう。

目標 2 飢餓をゼロに

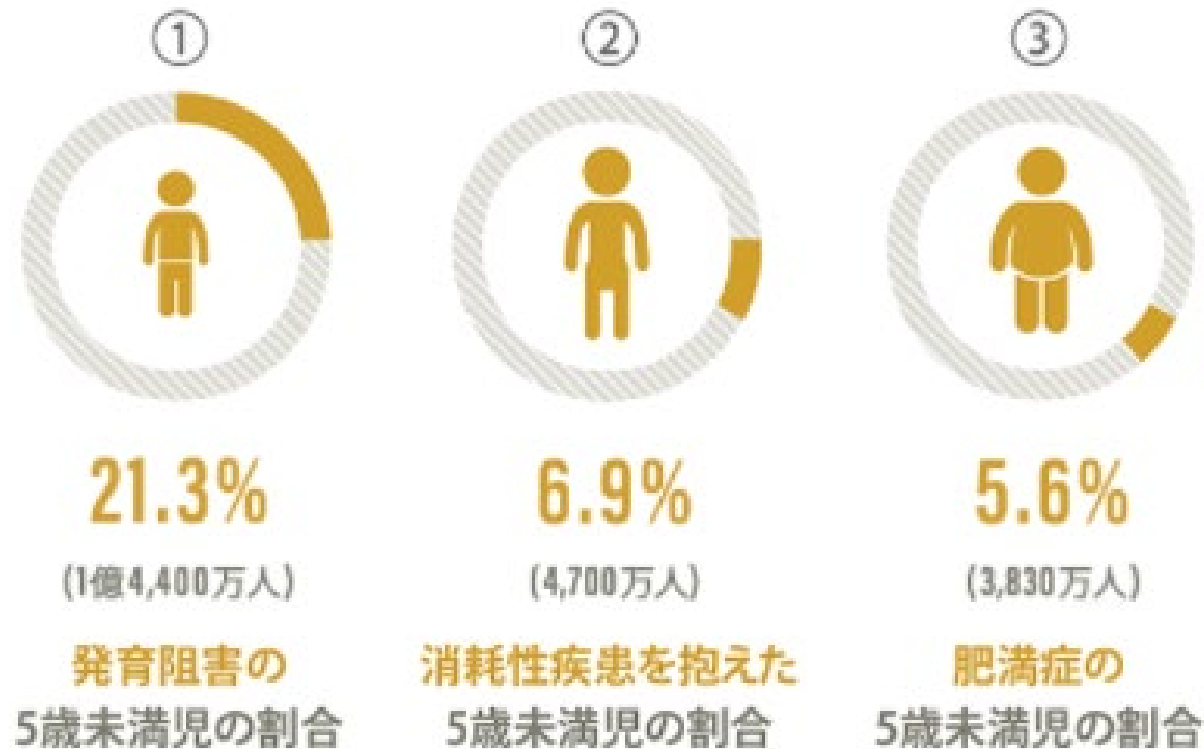
現状



今飢餓の世界と日本の現状はスライドに示したようになっており、世界の9分の1以上の人が必要な食料がない状況である。特にアフリカ大陸や南アフリカ大陸において、十分な食料が得られていない人口が多いことが分かる。

図1 ハンガーマップ2019
[ハンガーマップ 2020 | World Food Programme \(wfp.org\)](https://www.wfp.org/hunger-map)

いろいろなかたちの栄養不良



栄養不良は単に食料が不足しているだけではなく、必要な栄養素がたりていないことや、栄養のバランスが悪いことでも起こる。慢性的な栄養不良による発育阻害、急速あるいは重度の栄養不足による消耗性疾患等の問題を抱えている人がこんなにも沢山いることが試算から明らかである。

図2：色々な形の栄養不良

2. 飢餓をゼロに | SDGsクラブ | 日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会） (unicef.or.jp)

現状と達成状況

世界の飢餓人口は増加に転じている

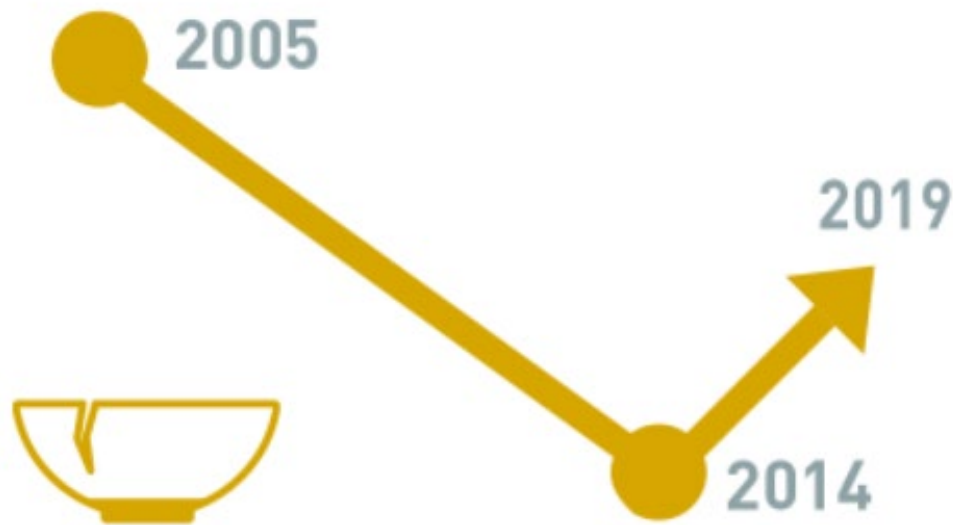


図3：世界飢餓人口の変化

世界の飢餓人口はゆっくりと上昇しており、このまま増加が進むと、2030年には飢餓人口は8億4140万人にもなるとされており、目標の達成は難しいと考えられる。

▶ 取り組み

- ▶ WFP(World Food Programme:飢餓と貧困をなくすことを使命とする国連唯一の食糧支援機構)が、必要な地域に食料を届ける取り組みや、食料の安定供給のための取り組みを行っている。

「食料」のある場所に、「平和」への希望がある。」
United Nations World Food Programme (jawfp2.org)

栄養の観点から、SDGsの目標2 飢餓をゼロについて感える。今飢餓の世界と日本の現状はスライドに示したようになっており、図1から分かるように世界の9分の1以上の人が必要な食料がない状況である。また、図2から、栄養不良は単に食料が不足しているだけではなく、必要な栄養素がたりていないことや、栄養のバランスが悪いことでも起こる。慢性的な栄養不良による発育阻害、急速あるいは重度の栄養不足による消耗性疾患等の問題を抱えている人がこんなにも沢山いることが資料から明らかである。

図3より世界飢餓人口は増加傾向にあり、2030年までの目標達成は難しいと考えられている。こういった中でも状況を改善するために世界では、例えばwfpが食料を届ける取り組み等を行っている。

目標12 つくる責任 つかう責任

現状

世界

- ・ 廃棄物の発生量が**増加**
→毎年、生産された食物の約 3 分の 1 が廃棄
- ・ 発展途上国でも先進国と同様に食品ロスが発生

食品産業

- ・ 事業活動によってエネルギー・資源の消費，温室効果ガスの発生，廃棄物の排出など環境に対して様々な**負の影響が生じている**

17の目標と食品産業とのつながり：目標12に対する取組：農林水産省 (maff.go.jp)

取り組み

▶ 食品ロスとは・・・

国民に供給された食料のうち本来食べられるにもかかわらず廃棄されている食品

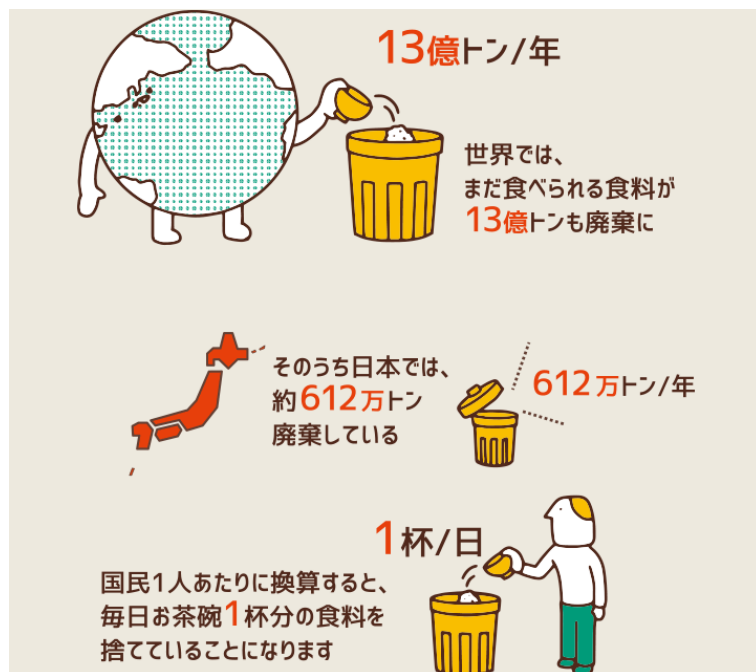


図 1

食品ロスの現状を知る：農林水産省 (maff.go.jp)

〈発展途上国における原因〉

○技術不足

→食べ物をつくっても収穫することが不可能

○インフラ(流通環境, 保存設備, 加工施設など)の不整備

→市場に出回る前に腐敗

環境の悪化や将来的な人口増加による食料危機につながる

取り組み(イギリス)

・ Community Food Connection

余剰な食品を全て慈善団体へ寄付する取り組み

「FoodShare」 [What We Do - fighting hunger and food waste | FareShare](#)

イギリス最大の慈善団体

「FoodCloud」 [Supporting Global Community • FoodCloud](#)

余剰食品を持つ企業とそれらを必要とする慈善団体を結びつける

連携

アプリを開発！！

⇒慈善団体とスーパーとの直接的なやり取りが可能となり、余剰食品の中から必要なものを選んで、支援を要する方に届けられるように！

Community Food Connectionとは・・・

イギリス最大のスーパーマーケット
チェーン「Tesco」での取り組みのこと



食品ロスの削減を目指す

現在の到達点(食品ロス削減)

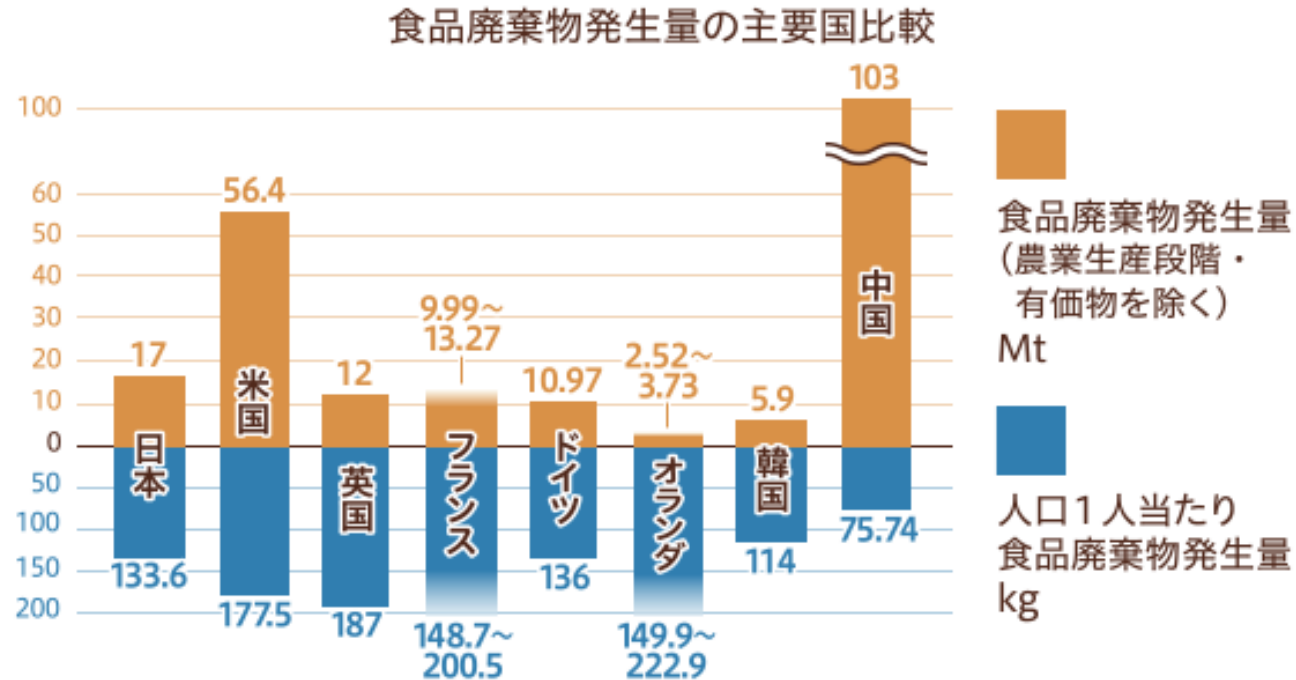


図2

食品ロスの現状を知る：農林水産省 (maff.go.jp)

人口1人あたりの食品ロスの量は決して少ないとは言えない

現在の到達点(目標12に対する)

- ▶ 世界では**持続不可能な形**で天然資源を利用
→背景には化石燃料に対する補助金の**増額**も
- ▶ 新型コロナウイルス流行後
より持続可能な未来を実現する**復興計画**を策定

目標12では、生産者、消費者共に、責任ある行動をとろうという目標が掲げられている。この目標に関して、主に「食品産業との関連性」という観点から紹介する。まず、現状としては食品の製造における資源の消費や廃棄物の排出などによる環境破壊の進行や、食品ロスの増加が問題視されており、図1より世界では、生産された食物の約3分の1が毎年廃棄されている。このような現状に対する取り組みについて、主に食品ロスの削減という視点から例を挙げて説明する。そもそも食品ロスとは、食べられるにも関わらず廃棄されている食品のことで、発展途上国では、技術不足やインフラの不整備が課題となっている。これに対する世界での取り組みとしては、などの活動が挙げられるが、図2より世界全体でみると、まだまだ人口1人あたりの食品廃棄物は決して少ないとは言えない状況である。現時点では、目標12として掲げられている循環型社会を目指すという点において、化石燃料の使用や廃棄物の排出など、まだまだ多くの課題が残っていると言える。

議論と結論

▶ 3人がそれぞれ調べた取り組みの共通点

- ・弱い立場の人、困っている人に何かを補助するという考え方
- ・フードバンクの考え方や食品ロスの有効活用の考え方が共通の解決策になるのではないか

→ 問題点について

どうやって運営を行うのか？

運営に対して金銭面で無理はないか？

供給できる食品に偏りがでた場合の栄養の偏り

結論

経済的に調和のとれた対策を取りたい

栄養バランスを考慮して食品を選択し提供したい

日本から世界への支援をもっと増やしたい

自分たちに何ができるのか？

情報や経済の面から

→学生が得意とするSNSやサイトの立ち上げを通して、募金を呼び掛ける。
広告費をフードバンクの取り組みを行う企業に寄付することで、
食品選択の幅を広げてもらう。

栄養面

栄養バランスの偏りを防ぐために

→食品選定の際に管理栄養士を配属し、栄養面から監修を行うような仕組み作りを
行政や企業に提案する。

フードバンクの仕分けや発送を手伝うボランティア活動への参加

私たちの班では、個々が調べたSDGsの目標の現状や具体的な取り組み、達成度などを踏まえ、私たちの専門性を活かして目標達成に貢献するためには、これらの問題に対して、どのように介入していくことができるかについて議論した。

まず初めに、解決策を見出す糸口として、今回調べた3つの目標の共通点を挙げたところ、弱い立場の人や困っている人に何かを提供するという形で援助をしていることや具体的な目標達成の取り組みとしてフードバンクや生じた食品ロスを有効に活用することが共通していると考えた。さらに、大前提として、国や行政、企業単位で取り組む必要性のある問題ももちろんあるが、個人単位でも意識や手段を選べば、関わっていけると考えた。

世界中でフードバンクや食品ロスを削減し有効活用する取り組みは行われており、例えばイギリスでは、大手チェーンのtescoがフードロス情報の開示に積極的な企業として、廃棄量を減らす具体的な取り組みを加速させている。デンマークのスーパーマーケットのweFoodは、近隣の食料品店から売れ残りの商品の寄付を受けて、付近の住民に廉価で販売する事業を開始している。また、このほか、SNSやアプリを活用して、地元のショップやカフェを商品引き渡しのためのハブにするシステムも欧州各国で広がっている。こういった取り組みが世界を超えて広がるのが、世界の状況をよくすることに繋がると考えた。具体的には、状況のよくない途上国に先進国の食品ロスを提供し有効に活用してもらう流れを作成することがよいのではないかと考えられる。また、栄養的な観点からロスとして提供できる食品に栄養バランスの偏りが懸念されるため、食品選択や流通の過程で管理栄養士が監修をする等の工夫ができればなおよいと考えた。

そういった取り組みを促進するために私たちができることとして、学生という立場や専門性を活かすといった観点から、どのように関わりをもつことができるのか、再び討論を行った。学生だからできるという視点からは、私たち学生が得意とするSNSを用いて、そういった活動を発信し、様々な人に活動を知ってもらうことや募金活動をする、学生という強みを活かして積極的にボランティアとしてその活動の支援に携わることができるのではないかと考えた。

また、教員免取得を目指すという私たちの共通の目標から、教員になった際には次世代を担う子どもたちにこのことを伝えていく必要もあると考えた。

授業の予告

③学習対象者、配慮事項

▶ 中学生

- ・ 言語に不安がある生徒のいる場合は言葉を補足する等の配慮を行う。
- ・ グループを組む際には学習の習熟度や意欲を考慮する。

授業の流れ

①SDGsを知っていますか？

②SDGsとは何か

グループワーク

～各班目標を1つに焦点を当てて考えてみよう～

③世界の状況と日本の状況について

④目標達成のために行われている取り組みについて

⑤自分たちに何ができるか考えてみよう

(自分の得意なことをヒントに考えていく)

まずはSDGsを知ろう！

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



参考動画 <https://youtu.be/lnbFQ9zVwG8>

https://www.meti.go.jp/policy/trade_policy/sdgs/index.html

最後に授業の予告を行う。私たちはSDG sについての総合的な学習の時間の授業を中学生を対象に行うことを想定した。授業の流れはスライドの通りである。

なによりまずは、SDG sについて興味を持ってもらうために、SDG sのイラストを提示することとする。見たことがある人はいるか等問いかけを行い、気になる項目等はあるか質問をし、班で気になる箇所を共有してみるところから活動をスタートさせることを計画した。